

剣道継続の阻害要因に関する研究
— 剣道愛好家に着目して —

順天堂大学
スポーツ健康科学研究科
学籍番号：4118004
氏名：石田 恭子

【目的】

現在、日本において生涯にわたる「豊かなスポーツライフ」の構築と運動・スポーツ実施率の向上を推進している。本研究では、生涯剣道を継続するために、社会人の剣道愛好家を対象として、剣道継続を阻害する要因を明らかにすることを目的とした。

【方法】

4つの適格基準を満たす社会人の離脱経験を持つ剣道愛好家23名を対象に、半構造化面接法を用いて、インタビューを実施し、テキストマイニングとKJ法の2つの分析を行った。

【結果】

(1) 剣道の継続を阻害する要因

テキストマイニングでは、「家庭生活による剣道の練習参加の難しさ」、「上下関係による剣道への嫌悪」、「社会生活による優先順位の変化」、「社会人以降の剣道観の変化」の4カテゴリーが抽出された。KJ法では、36項目の阻害要因は7カテゴリーに分類され、「剣道への意欲」、「剣道の特性」、「社会生活の環境」、「家庭環境」、「クラブ環境」、「身体的不安」、「精神的不安」と意味づけられた。

(2) 剣道を再開する要因

テキストマイニングでは、言語的な特徴はみられなかった。KJ法では、24項目の再開要因は5カテゴリーに分類され、「剣道へのモチベーション」、「他者からの影響」、「社会生活の環境」、「家庭環境」、「クラブ環境」と意味づけられた。

【結論】

学生時代に感じた人間形成を目的とした教育剣道や修行的な側面である剣道観への嫌悪感と他の要因が関連し合うことが、剣道の継続を阻害する長期離脱の要因と示唆された。